



喜多の埜

式年遷宮の諸祭典始まる

いよいよ、私たち日本人の大氏神さまである伊勢神宮（正式名は「神宮」のみ）の御社殿を新しく建替える式年遷宮（しきねんせんぐう）の準備の神事が始まりました。

式年とは、「式の年」つまり決められた一定の年月の意味で、遷宮とは、御神体をお遷しするという意味です。神宮では古式に則り、二十年に一度、正殿（しょうでん）を始めとする全ての建物と、神さまの御装束や神宝類全てを新調して、御神体を新たに建て直した新宮へお遷し申し上げ、御祭神であらされる、天照大御神さまの御神威も新たに甦るという意味のある、日本国第一の神事です。

神宮の古伝では、創建から数百年経た奈良時代の天武天皇の御代に式年遷宮が制度化されたとされ、第一回の遷宮が行われたのは、持統天皇四年（六九〇）のことです。以来、戦国時代に中絶した時代もありましたが、一三〇〇年にわたって続けられ、八年後の平成二十五年十月には第六十二回目の遷宮となります。なぜ二十年に一度かという点、唯一神創造といわれる社殿形式は創建当時と同じ掘立柱であり、二十年が建物の限界であるといわれています。また、建物等を造る職人が式年遷宮を通して次代へとその技術を継承する為の時間ともいわれ、二十年に一度の遷宮が、現代から次代へのパイプともなっています。

かつて「**皇家第一の重事、神宮無双の大嘗**」とその意義が説かれましたように、日本人の原点を今に伝え、これからも**大切に守らねばならない神事**であり、その式年遷宮の諸祭典が始まるのが本年、平成十七年なのです。

一、平成一七年	山口祭（やまぐちさい）（既に終了）
二、平成一七年	木本祭（このもとさい）（既に終了）
三、平成一七年	御杣始祭（みそまはじめさい）（六月三日）
四、平成一七年	裏木曾御用材伐採式（うらみそねごみぎのこぎり）（六月五日）
五、平成一七年	御樋代木奉曳式（ごひきぞのこぎり）（六月九日、十日）
六、平成一七年	御船代祭（みふねしろさい）（みひしろぎほうえいしき）
七、平成一八年	御木曳初式（おきひきぞめしき）
八、平成一八年	木造始祭（こづくりはじめさい）
九、平成一八年	御木曳行事（おきひきぎょうじ）（第一期）
十、平成一八年	仮御樋代木伐採式（かりみひしろぎぼうえいしき）
一一、平成一九年	御木曳行事（おきひきぎょうじ）（第二期）
一二、平成二十年	鎮地祭（ちんちさい）
一三、平成二二年	宇治橋渡始式（うじはしわたりはじめしき）
一四、平成二四年	立柱祭（りつちゆうさい）
一五、平成二四年	御形祭（ごぎょうさい）
一六、平成二四年	上棟祭（じょうとうさい）
一七、平成二四年	檐付祭（のきつかけさい）
一八、平成二四年	奠祭（いらかささい）
一九、平成二五年	お白石持行事（おしらしいしもちぎょうじ）
二〇、平成二五年	御戸祭（みとさい）
二一、平成二五年	御船代奉納式（みふななるほうのうしき）
二二、平成二五年	洗清（あらいきよめ）
二三、平成二五年	心御柱奉建（しんのみはしらほうけん）
二四、平成二五年	杵築祭（こつきさい）
二五、平成二五年	後鎮祭（ごちんさい）
二六、平成二五年	御装束神宝読合（おんしょうそくしんぼつとくご）
二七、平成二五年	川原大祓（かわらおおはらい）
二八、平成二五年	御飾（おかざり）
二九、平成二五年	遷御（せんぎよ）（十月中）
三〇、平成二五年	大御饗（おおみけ）
三一、平成二五年	奉幣（ほうへい）
三二、平成二五年	古物渡（こもつわたし）
三三、平成二五年	御神楽御饗（みかぐらみけ）
三四、平成二五年	御神楽（みかぐら）

遷宮に関する詳細は伊勢神宮か、遷宮広報本部にまでお問い合わせ下さい。
<http://www.sengu.info/>

当神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ポータフォン

対応確認済み。



編著 綱敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

